



第46号

# スマイル

～子どもたちが学校，地域で笑顔で輝けるように～



## おもちゃ病院からいただいた教材を紹介します

ボランティア組織「おもちゃ病院鴨島診療所」では、体の不自由な子どもたちが操作できるようおもちゃを工夫したり、既存のスイッチを扱いやすいよう作りかえたりする活動も、行っています。

この度、ひのみね支援学校にも寄贈していただきました。一部を紹介します。



### いろいろなおもちゃ

スイッチをつなげて遊べるようになっています。オルゴールで優しく揺れたり、メロディーが流れてコミカルに踊ったりします。

**見て、聞いて、触って、自分で動かして…  
驚きや気づき、そして面白いがいっぱい。**

### 手作りスイッチ



指先の小さな力でも操作できるスイッチ、タッチで操作できるセンサースイッチなどたくさんあります。是非、学校で使ってみて、感想をお聞かせください。



## 新しい社会人講師の先生が来てくれています



今年度も社会人講師として引き続き、ひのみね総合療育センターの磯部かおり PT、野津真理 ST、こころ工房の宮崎美和子コミュニケーションスペシャリストの先生方に来ていただいています。それに加えて、今年から新たに山田敦子視能訓練士さんにも来校いただき、子ども達の見え方に関してアドバイスをいただいています。

山田先生からは目の使い方や、絵本などの教材をどう提示したら見やすいかなど、教えていただいています。教えていただいたことの一部を紹介します。家庭での読み聞かせ時に活用ください。



見開きページの大きな絵は近すぎると全体を見ることが難しい。このような時は少し離して、全体を捉えられるような距離から見させる。  
※近くで見た場合、離して見た場合の違いを体験してみてください。



光がわかる子どもには光沢のある絵本、光が乱反射するような絵本は見やすい。そうでない絵本の時は、広角の懐中電灯で照らすのも一つの方法。